

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2775500834		
法人名	社会福祉法人 寿光会		
事業所名	グループホーム 寿光園		
所在地	大阪府八尾市楽音寺2丁目125番地		
自己評価作成日	平成 30年 3月 24日	評価結果市町村受理日	平成 30年 6月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&jigyosyoCd=2775500834-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 30年 4月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者に自分らしく生活していただく為に、利用者のできることや得意なことの把握に努め、掃除や洗濯、食事などの日常生活場面に出来る限り参加していただき、日々何気なく過ごすのではなく、「生活している」という実感を持ってもらえるような援助に努めています。また、余暇時間にレクリエーションを取り入れたり、四季折々の行事を企画し、生活の中に楽しみを持ってもらえるように努めています。健康管理の面でも併設施設の診療所との連携を密にし、健康上の問題点や不安な点などいつでも相談できる体制があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で長期にわたり総合的に各種の介護保険事業を手掛け、実績を積み上げて高い評価を得ている社会福祉法人が運営するグループホームです。ホームでは「普通の家庭での日常生活を、そのままグループホームでも実現する」という目標を掲げています。職員は自然体で利用者の気持ちに沿うケアをし、職員の退職もなく、職員間の意思疎通やチームワーク、信頼感は抜群で、家族の高い評価を得ています。利用者は優しい職員に囲まれ、風呂には毎日入り、美味しい食事を楽しみ、医療的な心配もなく、落ち着いた雰囲気の中でゆったりとした表情で過ごしています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの際に、法人の理念やグループホームの在り方など話をしていくと共に、事業所内に理念を掲示している。また、パンフレットにも掲載している。	法人は「周りの人の幸せを願う所に自らの幸せもある」を理念として定め、施設は「あたたかい心、あたたかい笑顔、あたたかい手」を理念と定め明示しています。職員は毎朝のミーティングや毎日の業務等を通じて、「普通の家庭での日常の生活を、そのままグループホームでも実現する」という目標を掲げています。職員は自然体で利用者の気持ちに沿うケアをしようという思いを共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域住民と共に支えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	2ヶ月に1回の運営推進会議を必ず実施し、地域の方々と情報交換をしている。また、夏祭りなどの施設行事に地域の方々が参加してくださっている。	町会に加入し、管理者が町会に参加し地域の情報を得ています。また、運営推進会議に地域の代表が参加していることもあり、地域行事や祭り等の情報をもらい、地域交流に活かしています。地域の夏祭りには同敷地内にある特養の駐車場に太鼓台が立ち寄ったり、ホームの祭りに地域住民の参加があるなど、自然に利用者との交流が生まれています。食材購入で日常的に近くのスーパーへ出かけ、店長等と気軽に話し合え、顔なじみになっています。職員は介護者教室(地域包括支援センター主催)の講師を行う等地域貢献に努めています。管理者や職員は、利用者と地域とが繋がりながら暮らすことの意味を大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、その時期に応じた議題について話をしている。また、地域におられる認知症の方に対する接し方など話をしているほか、地域包括支援センターが主催する教室の中で認知症について話をする機会がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必ず2ヶ月に1回会議を開催しており、グループホームの利用者及び職員の状況や運営状況などを報告し、地域からの意見も聞き、参考にしている。	運営推進会議は規程に沿って、2か月に1回開催しています。規定では構成員は利用者、家族、地域の代表（民生委員、高齢クラブ代表者）、地域包括支援センターとなっていますが、利用者の家族は仕事の都合などもあり、現在参加できていません。会議では運営状況、ホーム行事、研修等の報告を行い、参加者からは地域情報等の提供を受け、意見交換しています。ホームからの相談として、ホーム横の道路幅が狭く、利用者や地域住民が災害時に車での避難ができないことを話題にし、地域代表が市へ働きかけて解決した例があります。困っていることを会議で相談し、サービス向上に活かしています。会議録の閲覧を促す文書を掲示し、誰でも会議録を見ることが出来ます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課と連携をとり情報の交換を行っている。また、生活福祉課の担当者とグループホームにおられる生活保護受給者の状況を共有している。	職員は、市の担当職員と報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。また、地域包括支援センター主催の介護者教室や介護予防研修に講師を派遣し、行政の認知症サポーター養成研修や認知症カフェの開催にも協力をしています。八尾市のグループホーム分科会の研修会や見学会にも職員を派遣し、情報交換をしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修などで、身体拘束は禁止であることを話しており、緊急やむを得ない場合の身体拘束についての手順なども話しているほか、マニュアルを作成している。	職員は、ホームの年間研修計画に従い、身体拘束廃止や虐待防止、人権などについて学び、意識を高めて身体拘束のないケアに取り組んでいます。日中は玄関やエレベーターに施錠をせず自由に出入りができるようにしています。外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時など、身体をチェックをしているとともに、虐待についての研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度を利用している入居者がおり、関係者と話し合っている。また、職員にも成年後見制度等についての話を申し送りなどで行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所面接時に重要事項の説明を行っている。その際に疑問点や不安など尋ね、説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに要望などを聞くようにしているほか、直接言いにくい家族等に対して、法人の玄関に意見箱を設置しており、意見・要望があれば検討する体制がある。また、苦情受付窓口を設けているほか、介護保険課や国保連の窓口を重要事項に記載している。第三者委員の協力もあり、事業所内に苦情受付の案内を掲示しており、運営に反映させる体制がある。	職員は日頃から利用者・家族との会話を大切に、家族訪問時には気軽に声をかけし、利用者の暮らしぶりを伝えていきます。家族から進んで要望や意見を言える関係にあり、最近では部屋の掃除についての要望があり、応えることができています。直接言えない家族に配慮し、意見箱を設けています。職員は家族からの意見や要望を連絡ノートで共有しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中で申し送りなどを利用して意見などを話し合う機会があるほか、職員の自己評価を年に 2 回実施しており、その中で職員の意見や要望を聞く欄を設けている。また、職員の意見箱も設置しており、意見、要望があれば検討する体制がある。	職員は、毎朝のミーティングや日常の業務の中で業務の改善事項や課題について話し合い、提案し実行しています。職員の退職もなく、職員間の意思疎通やチームワーク、信頼感は抜群で家族は高い評価を与えています。法人は、職員の自己評価に基づき年2回面談し、風通しの良い職場作りに努めるとともに「キャリアアップ試験制度」を創設し、職員の待遇改善にも努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に施設内外を巡回し、職員に声をかけている。また、ハード面での整備状況を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会に参加できる機会を設け、職員のスキルアップにつなげている。また、施設内のキャリアアップ試験制度を導入し、希望者は試験を受ける制度がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の協議会や府の協議会などに参加し、情報の交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り、職員と利用者が一緒に過ごしている時間を設け、話を聞けるようにしており、利用者から訴えがあった際にはできる限りその場で聞き、問題解決につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に不安なことや要望など聞くようにし話しをしている。また、面会時などにも聞くようにし信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の性格や特徴、環境、に応じてサービス内容を提示して相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活場面において、利用者の残存能力を勘案し、できる限り一緒に物事を進めていくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに必ず家族と職員が話す時間を設けて、利用者の現在の状況などを報告し、今後の対応方法などを検討している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に家族に協力を求める声掛けを行っており、利用者の知人の方などの面会がある。また、利用者の生活歴や馴染みの場所などを把握し、テレビや雑誌、新聞など、その場所が出てくると一緒に見て話をしている。	職員は、利用者の知人がホームを訪ねた時や利用者が電話をしたい時に支援しています。また、利用者の出生地に2泊3日でガイドヘルパーと共に出かけるプランの実現の支援をしたりして、利用者の思いを叶える等、利用者が大切に思う馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が円滑に行動できるように、利用者一人ひとりのレベルの把握に努め、職員がその輪に入るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、福祉に関する相談であればいつでも受けることを伝えていると共に、いつでも遊びに来てくれるよう伝えている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と生活している中で、利用者からの要望を聞き、不安の解消などに努めている。	当初のアセスメントやその後の暮らしのなかで、利用者と家族から聞き取ったり、利用者の表情やしぐさから汲み取った希望や思いを毎日のケア記録と職員間の連絡ノートに書き込み、職員間で情報を共有化する努力をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に昔の話を聞くほか、家族にも情報提供してもらっている。また、利用者とのコミュニケーションを大切に、今までどのような生活を送ってきたのか、話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の身体的、精神的レベルの把握に努め、日常生活の中で残存能力を発揮しながら何が出来るのかを検討し、一人ひとりに合った援助に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時などに現在の状況を説明し、家族の希望を聞き、今後の対応方法など、職員と話し合い、利用者が安心して出来る限り自立した生活が出来るよう計画作成に努めている。	介護計画は定期的には3か月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員は個別介護計画の支援内容を毎日実行し、計画作成担当者は3か月毎にまとめのモニタリングをして評価し、全職員参加のサービス担当者会議を経て、介護計画の見直しにつなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤日誌やケースなどに状態の変化などを記録している。また、職員全体が情報を共有できるよう、連絡帳などを活用しており、計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに固執せず、その日、その時の利用者の身体的、精神的状況を勘案し、サービスの提供に努めているほか、利用者、家族の希望に応じて検討し、対応できる機能がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんによる演芸会などに参加し、生活を楽しめるよう心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望の医療機関を聞いているほか、事業所の協力医療機関を伝えている。また、併設施設の診療所との連絡帳を作っており、診療所職員とグループホーム職員が状況共有できるよう努めている。	家族の同意を得て、全ての利用者が月1回法人診療所で受診しています。また法人診療所の看護師が週1回利用者の健康管理を行っています。他科を受診する利用者には、必要の都度職員が通院介助をしています。協力医療機関と連携し、夜間や緊急時の対応についても万全な体制を整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の診療所の看護師にいつでも連絡できる体制があり、いつでも相談することができ、日常の健康管理などにも繋がっている。また、24 時間体制で看護師と連絡がとれる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際は、その病院の地域医療の職員と連携をとり、対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化してきた場合には、グループホームの職員、医師、看護師、家族との面談を行う機会を作り、今後について話し合うようにしている。また、入居時の説明の際に、重度化した場合のことについて話をしている。	ホームは看取り実施の方針を持ち、指針も作っていますが、契約時には重度化した場合、特養を含め法人全体で対応することを伝えています。今後、利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有しながら対応していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法など、研修や申し送りなどで話をしているほか、緊急時のマニュアルを作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特養と合同で避難訓練や初期消火訓練を行っている。また、火災についてだけでなく、地震、水害など、対応策を施設内研修などで話をしており、マニュアルを作成している。	同一法人の併設施設と合同で、年2回の火災・災害避難訓練を消防署の指導・承認のもとに実施しています。災害時の飲料水と食料品の備蓄も実施しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のその日、その時の状況に応じ、声のトーンなどに注意し、周囲の環境などを考慮しながら、利用者一人ひとりに合った声掛けや対応に努めている。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシー、尊厳を損ねないよう配慮して、丁寧でやさしい雰囲気をもって接しています。職員は年間計画に従い、プライバシーや接遇、人権の研修を受け、意識の向上に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に選択権があるような声掛けを心掛け、利用者が納得して行動に移せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者とのコミュニケーションを大切に、その日の気分や体調に応じた一日を過ごすことができるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類販売会などに直接行き、実際に服を選んで購入できる機会がある。日常生活においては、衣類が汚れれば更衣してもらい、好みに合わせた服を着てもらっている。散髪、顔そりなどは月に 1 回、美容師の来園した際に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルに応じて、できる範囲内で一緒に行っている。季節に応じて土筆などを一緒に取りに行き、下準備など協力してもらい、調理している。	「家庭のあたりまえをホームで」「家でやっていることをホームでも」の思いの実現に向けた取り組みの一つに、食事は三食、食材の購入から調理までホームで行い、手作りしています。利用者は得意分野を活かし、食材の買い物や食事作りに関わっています。献立は栄養のバランスを考え、同敷地内特養の献立を参考にしています。野菜を刻む音、煮物の匂い、ご飯の炊ける音等、五感を大切にしています。春には土筆を取りに行き、みんなではかまを取り、食材にしました。一つの広いテーブルを利用者と職員全員が囲み、職員は共に食しながらさりげなく援助し、穏やかな、ゆったりとした雰囲気、利用者、職員を感じさせない食事風景です。年に何度か利用者の希望で、おでん、餃子、鍋、バーベキュー等を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し、特養の献立を参考にし、定期的な水分補給に努め、脱水にならないよう注意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛け、見守り、介助を実施している。また、口腔ケアについて、疑問などがあった場合は、毎週木曜に歯科医師が訪問しており、相談できる体制がある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排尿間隔の把握に努め、なるべく失敗しないよう、トイレ誘導を行っている。また、利用者の行動に注意し、排泄の支援につなげている。	排泄記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。3人の利用者は完全に自立し、その他の利用者についてもしぐさや表情から状況を判断し、声かけや誘導、見守りによりトイレで排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活場面での行動を中心に参加してもらっていると共に、気候に応じて散歩など行い、運動につながるよう努めている。また、食事摂取量や水分補給量にも注意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午前、午後とも入浴の時間があり、希望に応じて行っている。入浴は利用者のペースに合わせて入ってもらっている。また、バイタル測定を実施しており、安全に入浴できるよう努めている。	利用者は普通の家庭で生活しているように、ほぼ毎日の入浴を楽しんでいます。季節を感じるできるように柚子湯や菖蒲湯なども楽しんでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	日中の日常生活場面で出来るこ とに参加してもらっており、安 眠に繋がるよう支援している。 また、昼間でも横になって休 憩をとれる体制がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	薬剤情報のファイルを作成し、 職員が薬の役割を確認できる ようにしている。また、薬のセ ッティングの際には必ず2名で チェックするようしており、服 用にてもらう際は、必ず日付、 名前、顔などが一致している か確認して服用してもらって いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、 嗜好品、楽しみごと、気分転 換等の支援をしている	四季折々の行事を企画し実施 しているほか、利用者の得意 なこと、好きなこと、嫌いな ことなどの把握に努め、日常 生活場面を中心に役割を持っ てもらえるよう、支援してい る。レクリエーションなども 取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買物などは利用者と一緒に行くようにしているほか、個人的なものは職員と一緒に買い物に出かけている。また、季節に応じて外出をしたり、気候がよければ散歩などにも行くようにしているほか、家族にも協力を依頼し、外出の機会を確保できるよう働きかけている。	ホーム近郊は田園風景が広がり、気候の良い季節には散歩や外気浴を楽しんでいます。食材の買い物以外に個人の買い物の外出支援もしています。春にはお弁当を持って花見に出かけました。家族と共に外食に出かける利用者や、生まれた場所へ旅行する利用者へ、職員はできるだけ支援しています。職員は利用者が重度化した場合にも外に出る機会を増やしたいと思い検討段階に入っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物などに一緒に行き支払をしてもらうことができる体制がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があればできるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時期に応じて、利用者と一緒に作ったものの装飾など行っているほか、職員と共に過ごす時間を持って家庭的な雰囲気が出せるように努めている。	ホーム周辺には季節感あふれる田畑や山々の緑が広がり、やすらぎを感じることができます。1階には明るくゆったりとしたリビングと食堂、2室の多目的利用ができる和室があり、食卓には季節の生花が飾られ、壁には桜の木の貼り絵の壁画や利用者の笑顔のあふれる楽しい大判の行事写真が貼られ、大型の五月人形も飾られています。職員の気遣いが溢れています。コーナーには利用者全員が座れるソファがあり寛げる居場所が確保されています。そして何よりも利用者の笑顔と話し声によって、明るく楽しい雰囲気になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には畳みの部屋もあり、一人になる事ができる空間がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使い慣れたものなどを持参してもらえよう家族に話をしており、できる限り入居前の部屋の感じが出るように努めている。また、入居してから本人の希望に応じ部屋の環境作りに努めている。	2階にある居室は日当たりが良く、窓からは周辺の季節感のある風景が一望でき、開放的な雰囲気になっています。居室には利用者が持ち込んだ箆笥、机、椅子、冷蔵庫、仏壇、家族写真、時計、テレビ、ぬいぐるみなどがあり、外出着が掛けられています。家族の気持ちも伝わる、居心地の良い居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者ができる限り残存能力を発揮し、自立した生活が出来るよう、必要な場所には手摺などがあり、職員の見守りのもと生活できるようにしている。		